

脱原発マニュアル I

原発事故

サバイバルハンドブック

【Ver.0.90】

避難中に次の事態が起こったら→【 】を見てください

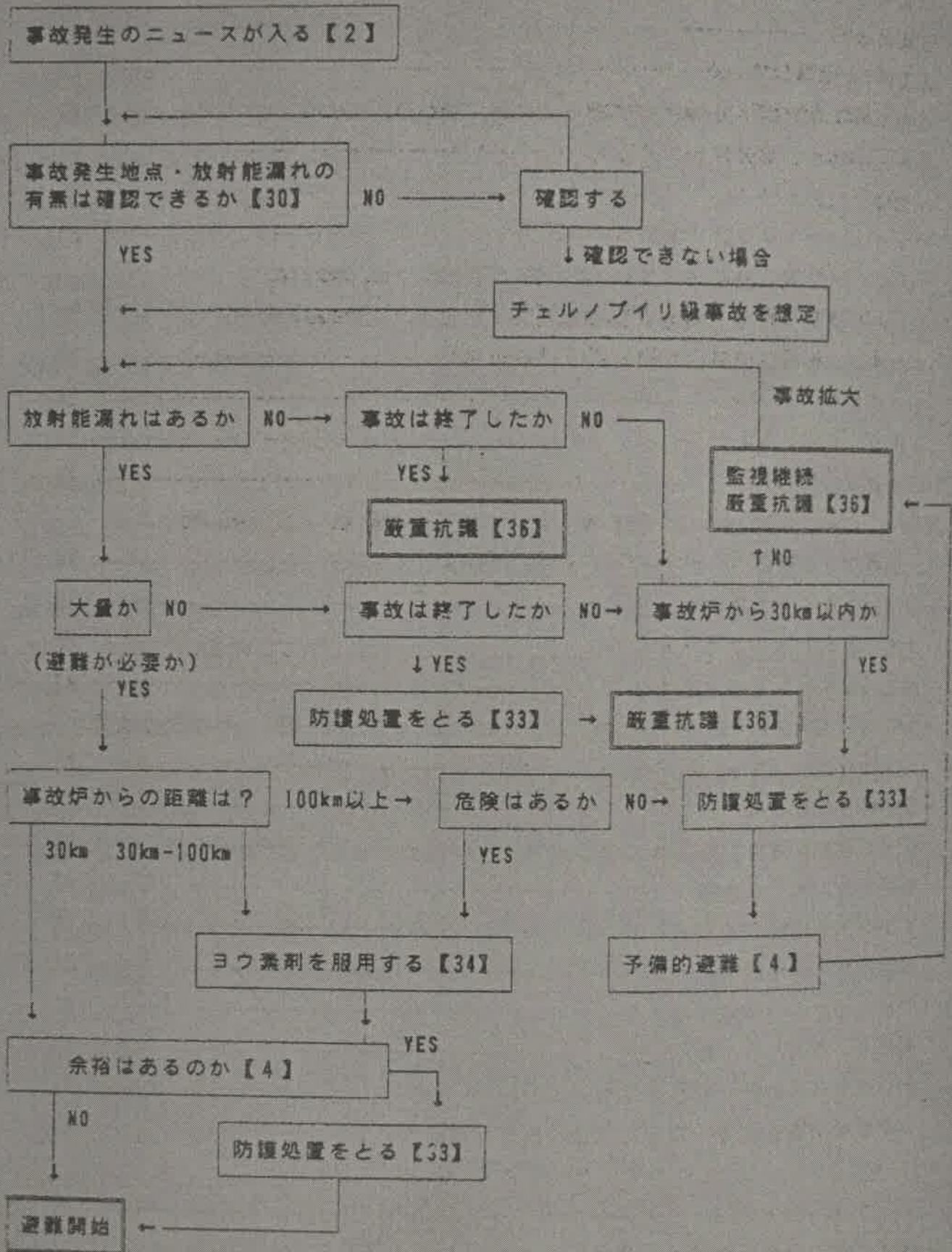
- 雨が降ってきたときに ————— 【27】
- 遮断機や検問の前で ————— 【28】
- 自動車で動きが取れなくなった場合 ————— 【28】
- 公民館などに収容されたら ————— 【28】
- とりあえず、避難を終了したとき ————— 【29】
- 休息、睡眠の前に ————— 【29】
- かなり被曝してしまったときに ————— 【29】
- 警察と政府 ————— 【30】
- 自衛隊が出動している ————— 【30】
- 口の中に金属の味がする ————— 【30】
- 空気・空の色がおかしい ————— 【30】
- 冬でもないのに木の葉が落ちている ————— 【30】
- 食事・水について注意すること ————— 【31】
- 周りがパニック状態におちいつている ————— 【32】

原発事故サバイバルハンドブック目次

	P
判断フローチャート	1
I. 事故発生ニュースが入ったら	
これだけはやること	2
こんなときはすぐ避難	2
判断に必要な情報をチェックする	3
各段階に応じて行動を開始する	3
II. 状況判断と余裕時間マニュアル	
避難すべきどうかの状況判断マニュアル	4
余裕時間の判断マニュアル	5
放射能雪の読み方ー風の秒速、風力、時速換算表	6
原発風向きマップ(季節別)	7
天気図(事故後の天気図を書きとめてください)	11
「R-DAN」などの放射能検知器が異常な放射能を検出したとき	13
原発から30km以内にいるとき	13
原発から30km以上離れているとき	13
警察や自衛隊が避難を誘導しているとき	14
政府・自治体の発表をどう読むか	14
電力会社の発表の読み方	16
III. 避難養生マニュアル	
原発から10km以内で事故発生を知ったら	18
至近距離で大事故発生	18
避難開始まで余裕がある場合	19
避難を開始しなければいけない場合	20
避難時の服装	20
避難時服装例(男女別)	21
逃げる方向を決定する	23
避難手段を決定する	23
避難時の持ち物チェックリスト	25
雨が降ってきたときに	27
遮断機や橋間の前で	28
自動車で動きが取れなくなった場合	28
公民館などに収容されたら	28

とりあえず避難を終了したとき—休息・睡眠の前に	29
かなり被曝してしまったときに	29
警察と政府	30
自衛隊が出動している	30
避難中に、事故炉から離れつつあるのに急に放射能が高くなった場合	30
食事・水についての注意すること	31
一息ついたときに	31
アンチ・パニックマニュアル	32
IV. 放射能から身を守るために	
住居の防護（大事故の場合、30km以内では必要ありません）	33
いのちの水を確保する	33
土地を覆う	34
子供たちを守るために	34
ヨウ素剤の飲み方	34
V. 事故後に何をはたらきかけるか	
大地を守るために	36
安全になるまで学校等を休校する	36
汚染の拡散を防止するために	36
食品の安全性を確保するために	37
VI. THE DAY AFTER 事故後の生活	
洗濯物の乾かし方	39
食品の表示も信用できない	39
安全な食品を確保するために	39
長期保存に適する食品	40
安全な水を確保する	40
自動車も汚染されている	41
放射能を家の中に持ち込まないために	41
事故後の子供たちの暮らし方	42
からだから放射能を遠ざけるために	43
放射能に汚染されてしまった大地、農作物をどうするか	43
あとがき	45
巻末付録：日本の原子力発電所	46
放射能汚染「危険」マーク	47

事故が起こったときにどう判断するか
 半断フローチャート
 各段階の判断方法は【 】内のページを参照してください。



1. 事故発生のニュースが入ったら

警告!!あなたが今いる場所から30km以内の原子力発電所から、放射能が洩れだしていることが確実だと思われる場合は、ただちに避難しなければなりません。冷静に避難を始めてください。

それ以外の場合はまず落ち着きましょう。あなたや家族、大切な人達がガンから逃れられる確率を高くするには、冷静で迅速な判断が必要です。

放射能による被曝を防ぐために全力をあげなければなりません。最初の判断は、避難するかしないかを決めることです。避難を決定した場合は、逃げ出すまでにどれくらいの余裕があるかを考え、その時間を最大限有効につかって放射能に対する予防処置をとります。避難しない場合も、被曝量を減らすためにできることがたくさんあります。

これだけはやること

1. 家中の戸や窓をすべて閉めてください。換気扇・エアコンなど、外気が入ってくる可能性があるものはすべて止めてください。放射能が家の中に侵入してくるのを防ぐためです。外の様子がすぐにわかるように、カーテンは開けておきます。
2. 情報入手のため、テレビ・ラジオなどは全部スイッチを入れてください。
3. 汚染されていない、安全な水を確保するため、風呂桶、鍋など、大きな容器にためられるだけ水をためます。
4. ヨウ素剤を飲みます。 →【34】「ヨウ素剤の飲み方」

こんなときはすぐ避難

1. 発電所、電力会社、公共機関（役所、警察、保健所など）が避難すべきことをアナウンスしている場合。または、事故の発生をアナウンスしているが、「放射能洩れは微量のため、外に出なければ大丈夫」と言っている。
2. 警察、自衛隊が出動して、避難を誘導している。
3. 原発関係者が避難を始めた。
4. 回りの人が避難を始めた。

→【18】「至近距離で大事故発生」

判断に必要な情報をチェックする

それ以外の場合はまず、事故が起きたという情報が本当かどうか、そしてどの程度の規模の事故なのか確認する必要があります。どう対応すればいいかを判断するためには、下の3つの項目の確実な情報が必要です。

1. 事故が起きたという情報はいつ誰から聞いたのか。
2. 事故が発生した原子炉はどこにあるのか。
3. 何月何時何分から放射能が洩れ始めたのか。

(または、いつまでは放射能洩れが無かったことが確実か)

以上のことを確認し、必ずここに書いておきましょう。

事故のニュースを聞いたのは	月	日	午前・午後	時	分
ニュースソースは					
事故を起こした原子炉は	電力		原発		号炉
放射能が洩れだしたのは	月	日	午前・午後	時	分

各段階に応じて行動を開始する

1. すぐに避難を開始する。 → 【18】「至近距離で大事故発生」
2. まだ少しは時間がありそうだ。 → 【05】「余裕時間の判断マニュアル」
3. 逃げる必要はなさそうだ。 → 【33】「IV. 放射能から身をまもるために」
4. どうしてよいのかよくわからない
→ 【04】「II. 状況判断・余裕時間判断マニュアル」

II. 状況判断・余裕時間判断マニュアル

避難すべきかどうかの状況判断マニュアル

放射能がやってくるのが確実で、避難すれば放射能濃度が下がることが確実な場合は避難します。

子供は大人の10倍、胎児は100倍放射能に弱いのです。放射能汚染が確実でなくとも、妊婦は予防的に避難させます。子供は早めに避難させます。事故炉に近い場合は、全員で避難するべきでしょう。

1. すぐに避難すべき場合 →【18】「至近距離で大事故発生」

(1) 発電所、電力会社、公共機関（役所、警察、保健所など）が避難すべきことをアナウンスしている場合。または、事故の発生をアナウンスしているが、「放射能逸れは微量のため、外に出なければ大丈夫」と言っている。 →【14】「政府・自治体の発表をどう読むか」

(2) 警察、自衛隊が出動して、避難を誘導している。

→【14】「警察、自衛隊が出動して、避難を誘導している」

(3) 原発関係者が避難を始めた。

(4) 回りの人が避難を始めた。

2. 事実を確認し、避難の必要性を判断する必要があるとき

(1) テレビやラジオなどのマスコミの報道も政府発表を鵜呑みにしている可能性があります。自分で確認しましょう。

(2) R-DANなどの放射能測定器が異常に高い数値を示し警報が鳴り始めた。 →【13】「放射線検知器が異常な放射能を検出したとき」

(3) 友人から避難するよう勧められた。

3. とりあえず避難の必要はないとき

(1) 事故炉から自分のいる場所まで、500km以上はなれている場合。

放射能汚染の予防処置にかかってください。 →【33】IV

(2) 事故は発生したが、放射能は漏れ出ていない場合。

電力会社や政府が「安全宣言」を出していても、安心はできません。よく確認しましょう。 →【16】「電力会社の発表の見方」

1. 事故が発生した場合、ただあわてふためいて逃げるだけでは、最終的な被曝量を減らすことはできません。一段落した後の被曝を予防しておく必要があります。予防処置をとる余裕がどれくらいあるか、冷静に判断して下さい。判断の結果、すぐ避難する場合は【16】。余裕がある場合は【30】へ進んでください。

2. 余裕時間を判断するポイント

- (1)放射能が漏れ始めたのはいつか。
- (2)放射能移動スピードはどれくらいか。
- (3)避難するコースは渋滞しないか。

事故炉から30km以内にいる場合は、何も考えずにただちに避難します。

→【18】「至近距離で大事故発生」

それ以外の場合は、上の3つの要素を考えて行動を決定します。放射能は風に乗ってやってきて、雨で地上に定着します。

3. まず、風の向きと強さを見て時速を判断して下さい。普通は時速15kmくらいでしょうか。

→【06】「放射能雲の読み方」

風はきまぐれですから、たとえ今風上であっても、一応天気図で全体的な気象状況を見た上で判断します。これで大体の放射能到着時間がわかります。難しい場合は、まっすぐ事故炉から風が吹いていることにして考えてください。この条件で事故炉から100km離れるまでは放射能に追いつかないように避難します。

4. 時間の判断を修正する場合

- (1)交通事情が悪い場合
- (2)すでに多くの人逃げ始めていて、渋滞に巻き込まれそうな場合
- (3)警察、自衛隊、広報車などが出動し、避難の誘導が始まった。
- (4)明らかに放射能が放出されている
- (5)異常に早く「安全宣言」が出された。
- (6)原子力関係者が避難を始めたようだ。

風の秒速、風力、時速換算表

事故発生時には下の表で放射能雲がやってくるまでの時間の見当をつけましょう。風速は1秒に何メートル風が移動するかです。ただし地上と上空で風向きや風速が違うことがあるので注意！上空の風は雲の動きで判断します。

風速 (m/s)	時速 (km/h)	風力	状態
1	3.5		
2	7	1	煙がなびき、やっと風があるとわかる
3	11	2	顔に風を感じる。木の葉が動く
4	15		
5	18	3	木の葉がたえず動く。軽い旗がはためく
6	22		
7	25		
8	29	4	砂ぼこりが立ち、紙が舞い上がる
9	33		
10	36		
11	40	5	小さな木がゆれ、池の水面に波頭が立つ
14	50	6	大枝が動く。傘がさしにくい
17	62	7	木全体がゆれ、風に向かって歩きにくい
21	75	8	小枝が折れる。風に向かって歩けない
25	88	9	建物に少し被害が出始める
28	100	10	木が根こそぎ引き抜かれる

自分の移動速度より風が速い場合は早目に避難を開始しましょう。

各移動手段の通常の移動速度は、およそ以下の通りです。

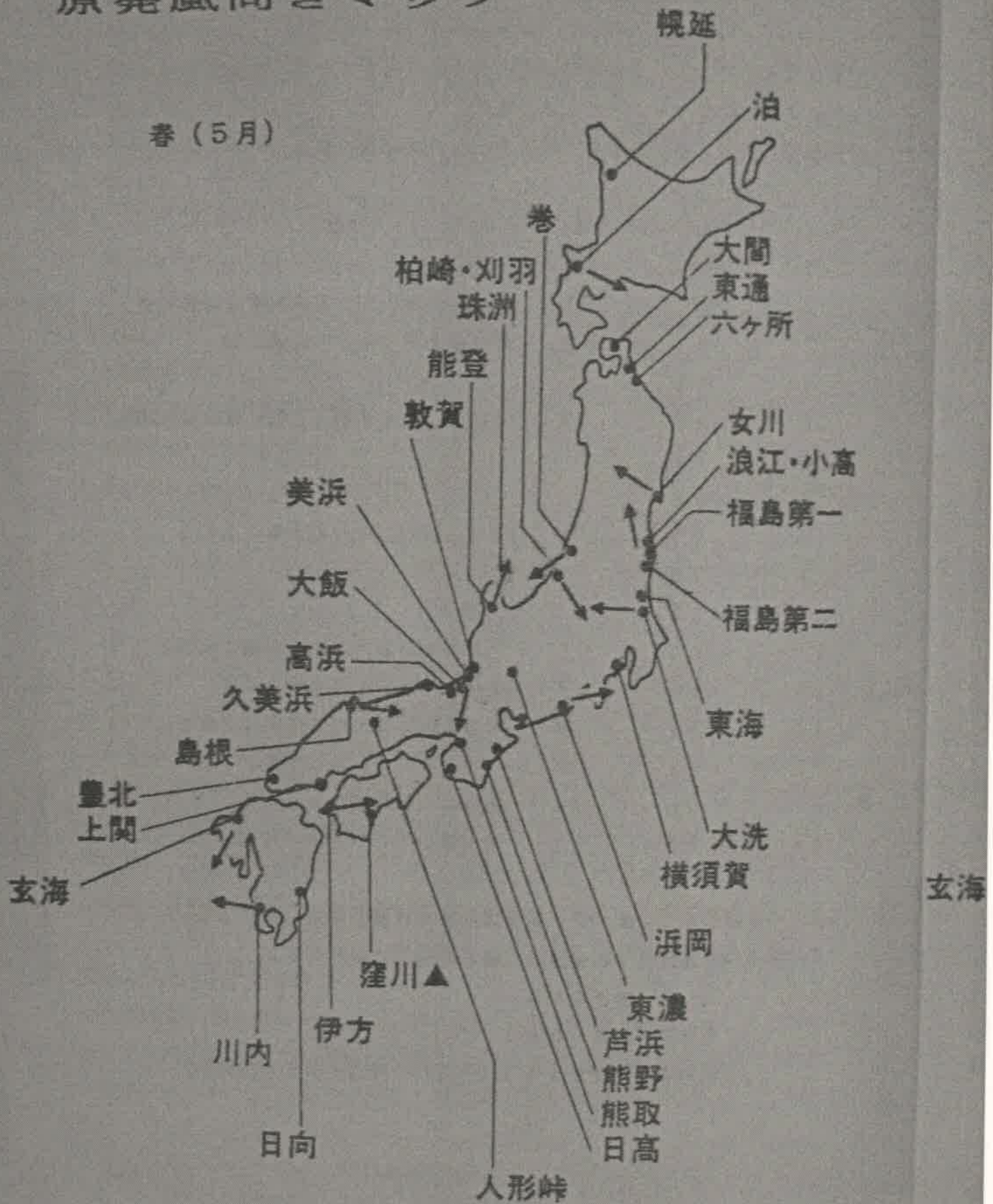
徒 歩 時速4キロ

自転車 時速10キロ

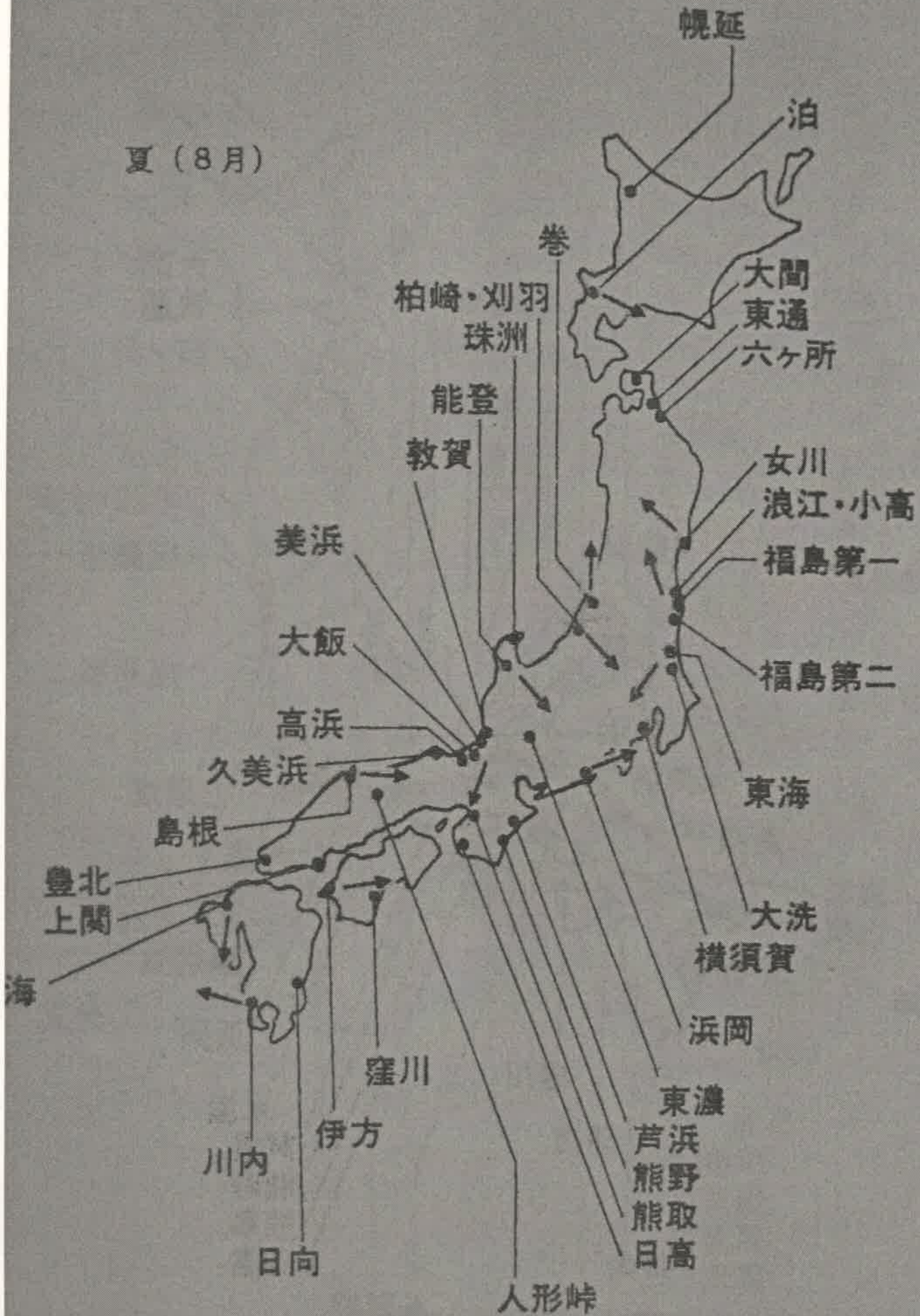
自動車 時速25キロ(市街) 時速40キロ(郊外)

原発風向きマップ

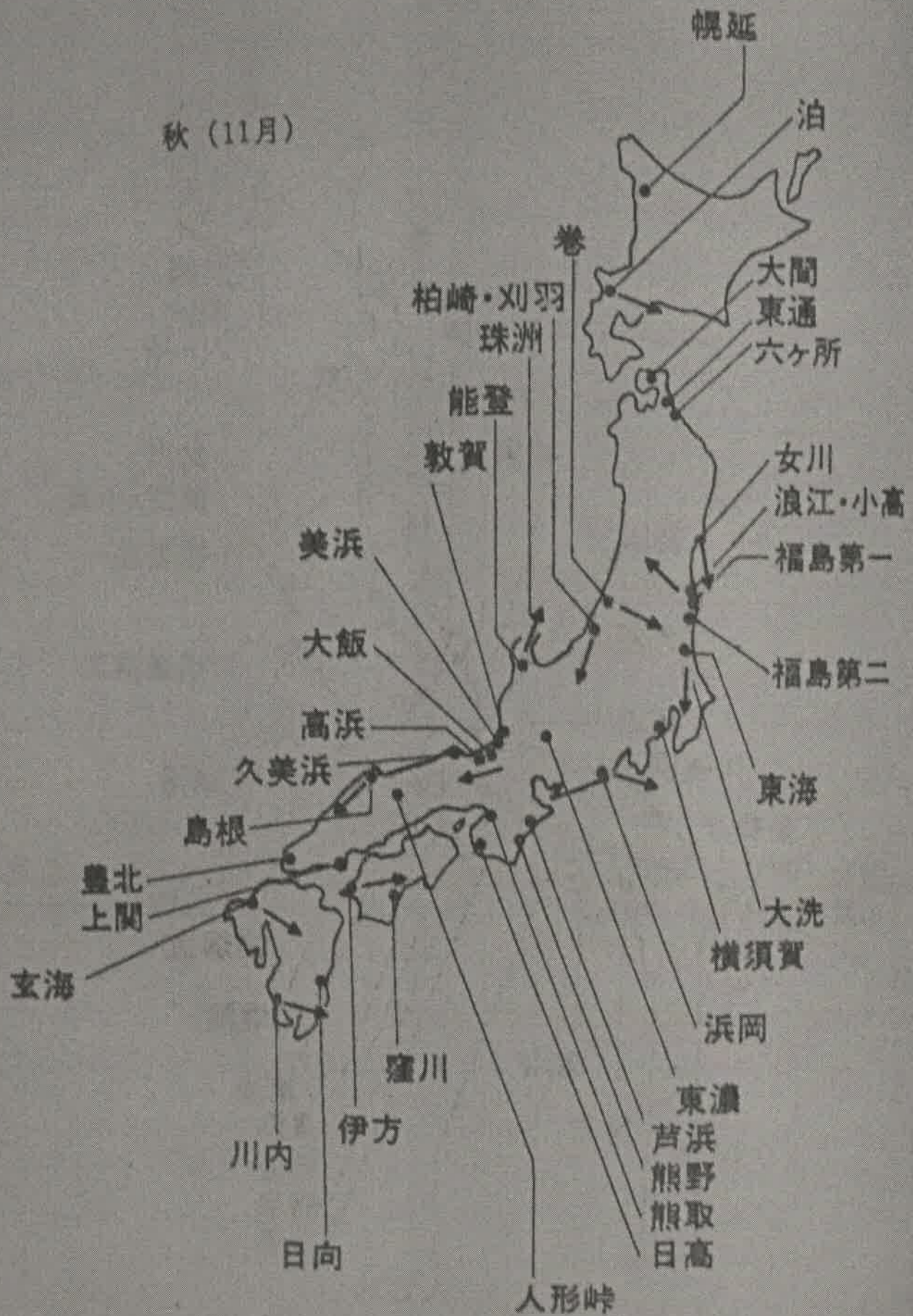
春(5月)



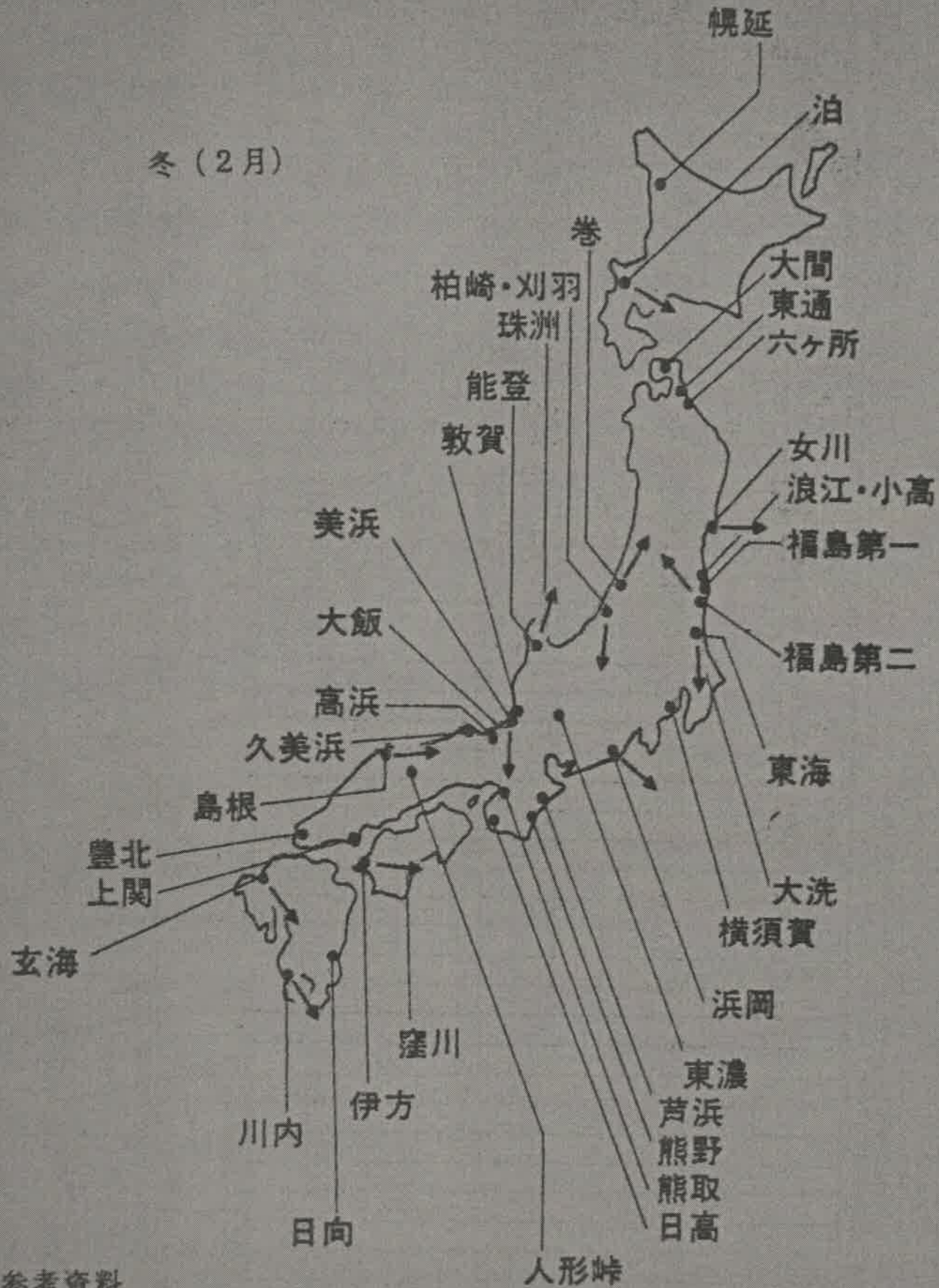
夏 (8月)



秋 (11月)



冬(2月)



参考資料

- 『QUARK』1988年10月号P18～27「原発周辺風向きマップ」(講談社)
- 『日本の原発地帯』鎌田慧(河出文庫)